

はにい

S L S

平成26年1月31日



ある小学校です。

「S L S」【=スクールライフサポーター（学校ボランティア）の略】として、ある学生が活躍しています。

——どんな学生さんですか。

「まず、あいさつが本当に素晴らしい。朝、職員室に入ってくると、元気な声でしっかりとあいさつをしてくれます。彼女は子どもが大好きで、子どもと関われることを喜んでいいます。謙虚な姿勢でサポートに入り、子どもの話をよく聞こうとしています。」（教頭先生談）

給食の時間・・・

「先生、先生～。私たちの班で一緒に食べよう。」 児童からの誘いに笑顔でこたえます。

昼休み。クラス全員と校庭でドッジボール・・・

子どもの中に入って一緒に遊びますが、つまらなそうにしている子がいないか、目配りも忘れません。気になる子には、さりげなく近づいて声をかけます。



5時間目の算数の時間・・・

「先生、先生、わからな～い」目線を子どもの高さにあわせて丁寧に教えます。課題が解決した子どもの顔はとても晴れやか。学生を見る子どもの目はキラキラしています。

子どもの1人は、学生のことをこう言います。

「先生やさしいよ。昼休み一緒に遊んでくれる。勉強も教えてくれる。先生がいないと、な～んかつまらない。」



以下、学生の感想です。

「大学で教育について勉強していましたが、実際学校に入ってみると全然、活用できないことに気がきました。最初はめげそうでした。男の子は、話しかけてもくれない。女の子も一部の子は、「先生に教わってもわからない」と結構きついことも言われました。

子どもとの関係が変わり始めたのは、9月頃からです。話していない子には、自分から話していくようにしたら、子どもから「先生、昨日こんなことしたよ。」など話をしてくれるようになりました。」

学生に聞いてみました。

—— 活動で一番大切にしていることは何ですか？

「子ども1人ひとりのがんばりに気付くことです。」

専用メールアドレス： inochi4027@pref.kanagawa.jp